

書道文化研究プロジェクト 古名硯と墨色の試みⅡ 研究報告

研 究 員：大池茂樹（青岑）

特任研究員：磯谷寧（淒聴）、上小倉一志（積山）、

庄田昭人（華鳳）、高桑康（巖風）、村瀬俊彦

本研究は「古名硯と墨色の試み」と題し、中京大学が所蔵する古名硯 97 面を、平成 25 年（2013 年）～平成 30 年（2018 年）の 6 年をかけて使用してきた。その経緯については、前回の報告（本誌 2018 Vol.30）で行ったので割愛する。

今回の研究では、令和元年（2019 年）の第 7 回から令和 3 年（2021 年）の第 9 回までの 3 年計画で、6 名の研究員が毎年各自 1 面の硯を選定し、産地の異なる 3 種類の和紙ならびに和墨あるいは唐墨を使用することとした。先の 6 年の研究では、6 cc のミネラルウォーター（硬度約 30）を、10 秒および 20 秒かけて磨墨した 2 種類の濃度の液墨を用意したが、今回は墨を磨る時間を 20 秒と 100 秒とし、約 5 倍の濃度の違いによる墨色の違いを試みた。また、使用する紙については国産の和紙に限定し、産地の異なる 3 種類の和紙を使用した。



書道文化研究グループ 研究発表

第七回 硯と墨色の試み

中京大学収蔵 古名硯展示

北海道産紙・秋田十文字和紙・播州雁皮紙と
和墨・唐墨とのマッチングを試みました

令和元年11月25日(月)～29日(金)
午前10時～午後3時30分
中京大学 名古屋キャンパス Cスクエア
(地下鉄「八事」駅下車)

中京大学 文化科学研究所
〒466-8666 名古屋市中区八事本町101-2



大池 青岑
磯谷 凌聡
村瀬 俊彦
上小倉 積山
庄田 華風
高桑 嚴風

書道文化研究グループ 研究発表

第八回 硯と墨色の試み

中京大学収蔵 古名硯展示

京都楮紙・福井雁皮紙・岡山三桠紙と
和墨・唐墨とのマッチングを試みました

令和2年12月3日(木)～9日(水)
午前10時～午後3時30分(土日は閉室)
中京大学 名古屋キャンパス センタービル2階
Cスクエア (地下鉄「八事」駅下車)

中京大学 文化科学研究所
〒466-8666 名古屋市中区八事本町101-2



大池 青岑
磯谷 凌聡
村瀬 俊彦
上小倉 積山
庄田 華風
高桑 嚴風

第7回 硯と墨色の試み

2019年11月25日(月)～29日(金)

中京大学 名古屋キャンパス Cスクエア

中京大学が所蔵する古名硯6面を展示します。書道文化研究グループでは、これらの硯を展示鑑賞するとともに、名硯本来の目的である実用的な「磨墨」と「墨色」を試みる研究を行っています。

硯は、中国^{たんけい}端溪硯(広東省肇慶市) 歙^{きゅうじゅう}州硯(安徽省黄山市)が有名です。澄泥硯は川砂を陶器のように焼き固めたものと言われています。大きさ、形、彫刻、色、模様、硯の産地などが目のつけどころです。それらが硯の命名の由来ともなっています。墨は、中国製の唐墨、日本製の和墨を各種使用しています。

今回から、日本の各地で作られている和紙を使用しての試みを始めました。にじみや墨色の具合を

よくご覧になっていただき、皆さんも是非ご自宅で墨を磨って字を書いてみてください。

硯名（収蔵No.）	寸法（タテ×ヨコ×高さ）	使用墨
1. 端溪仿宋斗星硯（1-03）	22.7 × 14.7 × 4.4	古墨 油煙（玉光堂製）
2. 仿製東坡像硯（1-13）	22.1 × 15.0 × 1.9	和唐精妙（墨運堂製）
3. 端溪劉墉銘硯（2-11）	19.1 × 12.9 × 3.9	王質爛柯（唐墨 大明程君房製）
4. 老松双禽硯（2-18）	24.0 × 15.4 × 3.7	大玄（墨運堂製）
5. 竹節游螭硯（2-29）	13.7 × 15.4 × 3.0	大好山水（唐墨 曹素功）
6. 澄泥硯（3-18）	13.3 × 10.4 × 1.7	紫玉光（唐墨 曹素功堯千氏）

<使用紙>

- 北海道産 笹紙（並厚）…北海道産の笹を 100%原料に使用したパルプ紙です。原紙の寸法は 515 cm × 364 cm
- 秋田十文字産 十文字和紙（薄手）…自家栽培の^{こうぞ}楮を 100%原料に使用した手漉き紙です。原紙の寸法は 810 cm × 370 cm
- 兵庫ちくさ産 播州ちくさ雁皮紙（厚手）…^{かんぴ}雁皮を 100%原料に使用した手漉き紙です。^{うるし}漆を使って書いたかのような艶のある墨色が得られるそうです。原紙の寸法は 1120 cm × 430 cm

第 8 回 硯と墨色の試み

2020 年 12 月 3 日（木）～ 9 日（水）（土曜・日曜は閉室）

中京大学 名古屋キャンパス センタービル 2 階 C スクエア

中京大学が所蔵する古名硯 6 面を展示します。書道文化研究グループでは、これらの硯を展示鑑賞するとともに、名硯本来の目的である実用的な「磨墨」と「墨色」を試みる研究を行っています。

中国^{たんけい}端溪硯（広東省肇慶市）は、1000 年前の北宋時代から使われるようになった有名な良質の硯です。大きさ、形、彫刻、色、模様などが目のつけどころです。それらが硯の命名の由来ともなっています。

前回から、日本の各地で作られている和紙を使用しての試みを始めました。墨は、中国製の唐墨、日本製の和墨を各種使用。にじみや墨色の具合をよくご覧になっていただき、皆さんも是非ご自宅で墨を磨って字を書いてみてください。

硯名（収蔵No.）	寸法（タテ×ヨコ×高さ）	使用墨
1. 端溪魚腦凍硯（1-07）	22.4 × 14.9 × 2.5	茜雲 茶墨（墨運堂）
2. 端溪自然形硯（1-12）	19.0 × 17.2 × 3.7	米油煙墨（鈴鹿墨 進誠堂）
3. 端溪貝多羅葉硯（1-16）	23.8 × 11.8 × 2.0	耕読中学試験田（歙県徽墨廠） 数菊艶蒼松（徽州磐石氏） 青墨（徽歙老胡開文）
4. 端溪仿製雪浪硯（1-17）	23.5 × 23.5 × 3.8	玉品 鉞物性直火焚煙（墨運堂）
5. 端溪水紋硯板（1-18）	21.2 × 13.4 × 2.4	良寛 純菜種油煙（祥碩堂）
6. 端溪龍紋旧硯（1-19）	23.2 × 16.5 × 5.8	蒼苔 青墨（古梅園）

<使用紙>

- 京都綾部市黒谷町産 黒谷和紙（薄手）…^{き ずき み さらし こうぞ}生漉未晒。楮を原料とした自然色の和紙。原紙の寸法は 600 mm × 900 mm
- 福井県越前市産 越前和紙（薄様雁皮紙）…国内産^{が ん び}雁皮を 100%使用。蓬の灰汁で煮熟し銀杏板張り乾燥を行う。優美な光沢感があり、平滑にして透明、粘着性に富んだ腰の強い緻密な紙質。原紙の寸法は 606 mm × 848 mm
- 岡山県津山市上横野産 美作紙 純三桮全懷紙 厚口（薄手）…自然色の純三^{みつまた}桮紙。仮名書、写仏にも使用される。原紙の寸法は 360 mm × 490 mm



書道文化研究グループ 研究発表

第九回 古名硯と墨色の試み

中京大学収蔵 古名硯展示

島根石州純楮紙・奈良吉野杉皮紙・徳島阿波雁皮紙と
和墨・唐墨とのマッチングを試みました

令和3年11月30日(火)～12月6日(月)
午前10時～午後3時30分(土日は閉室)

中京大学 名古屋キャンパス センタービル2階
Cスクエア (地下鉄「八事」駅下車)

中京大学 文化科学研究所
〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町101-2

大池 青岑
磯谷 凌聴
村瀬 俊彦
高桑 嚴風

上小倉 積山
庄田 華風

第9回 古名硯と墨色の試み

2021年11月30日(火)～12月6日(月) (土曜・日曜は閉室)

中京大学 名古屋キャンパス センタービル2階 Cスクエア

中京大学が所蔵する古名硯のうち、端溪硯6面を展示します。書道文化研究グループでは、これらの硯を展示鑑賞するとともに、名硯本来の目的である実用的な「磨墨」と「墨色」を試みる研究を行っています。

中国端溪硯(広東省肇慶市)は、1000年前の北宋時代から使われるようになった有名な良質の硯です。大きさ、形、彫刻、色、模様などが目のつけどころです。それらが硯の命名の由来ともなっています。

第7回から3回にわたり、日本の各地で作られている和紙を使用して試みてきました。今回は、島根県石州の純楮紙、奈良県吉野の杉皮紙、徳島県阿波の雁皮紙を使用。墨は、中国製の唐墨、日本製の和墨を各種使用。にじみや墨色の具合をよくご覧になっていただき、皆さんも是非ご自宅で墨を磨

て字を書いてみてください。

硯名（収蔵No.）	寸法（タテ×ヨコ×高さ）	使用墨
1. 端溪松樹硯板（2-05）	21.1 × 15.3 × 4.4	良寛 純菜種油煙（祥碩堂）
2. 端溪石渠硯（2-10）	10.0 × 10.0 × 2.5	墨精 植物性芯焚煙（墨運堂）
3. 端溪在銘硯（2-27）	13.9 × 10.1 × 2.6	玉品 鉈物性直火焚煙（墨運堂）
4. 端溪龍石銘小硯（2-28）	12.4 × 8.3 × 4.5	和唐精妙 鉈物性芯焚煙（墨運堂）
5. 端溪雙龍廻文硯（3-11）	27.9 × 18.1 × 3.0	古香齋（中国嘉慶御墨）
6. 端溪硯（3-12）	9.2 × 5.9 × 1.9	墨寶

<使用紙>

- 島根 石州 純楮紙…^{こうぞ}楮の繊維を機械でほぐし、^す漉きあげて鉄板で乾燥。繊維が長いため強靱である。630 mm × 1000 mm
- 奈良 吉野 杉皮和紙…樹齢 100 年以上の吉野杉の甘皮（樹皮）に含まれる繊維を取り出し、丹念に漉きあげた。壁紙、書画、照明、文具などに使用。1450 mm × 460 mm
- 徳島 阿波 雁皮紙…国内産雁皮^{かんぴ}を主体原料とし、八分へぐりの楮を加える。「へぐり」とは削り取るという意味で、八分削って二分残している。版画などに多く利用。640 mm × 970 mm

なお、研究員各自作品を 1 点ずつ揮毫し展示した。

第 7 回（2019 年）

- 大池青岑「萩原朔太郎 自転車日記より」

使用硯：端溪八稜鏡硯 老坑水巖

使用墨：紫玉光（唐墨 曹素功堯千氏製）

磨墨後すぐ

使用水：井戸水

使用筆：錦秋 中（伽藍製筆）

使用紙：伊予光琳（和画仙）

- 磯谷淒聴「鏡天無一毫」

（鏡天一毫無し 鏡のように澄みきった空には雲一つ見えない）

使用硯：羅紋硯 墨磨機で磨墨

使用墨：書芸呉竹（呉竹精昇堂製）

磨墨後 40 時間経過

使用水：水道水

使用筆：石貍毫

使用紙：羅紋箋

● 上小倉積山「陶然方外樂」

使用墨：玉品 機械磨り 1 時間 30 分

使用水：水道水

使用筆：暢心（和筆）

使用紙：白鳳箋（和画仙）

● 庄田華鳳「我心渺無際」

（私の思いは、はてしなく広がる）

使用墨：書芸呉竹 濃墨（呉竹精昇堂墨液）

使用筆：和筆 だるま筆

使用紙：台湾画箋

● 高桑巖風「蘇太簡句」

（潤彼元墨、染此柔翰。申情寫意、經緯群言。あの黒い墨をぬらして、この柔らかい筆をひたす。情を述べ意を写し、さまざまな言葉をおさめととのえる）

使用硯：端溪硯 150 ccの水を 1 時間 30 分機械磨り

使用墨：大好山水（唐墨 曹素功）

磨墨後 20 分 希釈 100

使用水：水道水（名古屋市）

使用筆：暢懷（唐筆 友生昌）

使用紙：竹檀紙（唐紙 杭州富陽）

● 村瀬俊彦「ひとり寝る」

（ひとり寝る山鳥の尾のしだりをに霜おきまよふ床の月影）

使用硯：端溪 手磨り

使用墨：和墨（玉光堂）

使用水：水道水

使用筆：和筆 無印兼毫

使用紙：和画仙 加工紙

第8回（2020年）

● 大池青岑「蘇東坡句」

（顔公變法出新意 細筋入骨如秋鷹）

使用硯：端溪八稜鏡硯 老坑水巖

使用墨：紫玉光（唐墨 曹素功堯千氏製 頂煙）7 ccの水を20分磨墨 墨温 21.5度

使用水：コントレックス（硬度1468）

使用筆：錦秋 中（伽藍製筆）

使用紙：安徽省鷄玉牌淨皮亀紋箋（中国画仙）

● 磯谷淩聴「秋雲靜晩天」

使用硯：羅紋硯 墨磨機で磨墨

使用墨：書芸呉竹（呉竹精昇堂製）

磨墨後1日半経過

使用水：水道水

使用筆：継述

使用紙：夾宣（中国画箋）

● 上小倉積山「探雛入虎窟」（李商隠）

（雛を探りて虎窟に入るべし 勲功をあげるのに危険をおかすのもよい）

使用墨：開明墨汁（開明）

使用筆：暢心（和筆）

使用紙：泰山箋

● 庄田華鳳「綽綽有餘裕」

使用墨：墨の華（開明）

使用筆：和筆無印 兼毫茶毛 だるま筆

使用紙：台湾画箋

● 高桑嚴風「汪道貫句」

（夫墨者黝而已矣。堅其德徳也。色澤其華也。墨は青黒色が命である。堅いことは墨の徳であり、色や光沢はその花である）

使用硯：端溪硯 200 ccの水を45分機械磨り

使用墨：鉄斎翁書画墨（唐墨）と玉品（墨運堂）

磨墨後2時間 希釈なし

使用水：水道水（名古屋市）

使用筆：城心（和筆 松林堂製）

使用紙：鶴寿延年印花箋（中国古代名紙）

● 村瀬俊彦「あはれまた」（藤原定家）

（あはれまた こよひの雪の いかならむ まがきの竹の 夕暮のそら）

使用墨：和墨（古墨）

使用筆：無印兼毫 中鋒

使用紙：楮紙（萱漉き）

第9回（2021年）

● 大池青岑「萬象含佳氣」（劉禹錫）

（万象 佳氣を含む）

使用墨：墨淵（開明墨汁）

使用筆：杉影（玉蘭堂 久保田号）

使用紙：紅星牌 玉版淨皮單箋（中国画仙）

● 磯谷淩聴「紅遠結飛樓」（杜甫）

使用硯：端溪硯 20ccの水を15分磨墨

使用墨：天衣無縫（呉竹精昇堂製）

使用水：水道水

使用筆：山馬筆

使用紙：瑞穂（和画箋）

● 上小倉積山「觀濤海門秋」

使用墨：墨の華（開明墨汁）

使用筆：積山（和筆）

使用紙：泰山箋

● 庄田華鳳「樹德莫如滋」

（徳を積むにはさかんにするのがいちばん）

使用墨：開明墨汁

使用紙：和画箋

● 高桑巖風「政善則嘉瑞臻」

(^{まつりごとぜん}政 ^{すなわ}善なれば則ち^{か ずいた}嘉瑞臻る。政治が良ければ祥瑞が現われる)

使用硯：円形端溪硯 200 ccの水を1時間30分機械磨り

使用墨：大好山水（曹素功堯千氏選煙）

磨墨後20分経過後 希釈なし

使用水：アルカリイオン水（PH8.8～9.4 硬度55）

使用筆：白狸毫 神武

使用紙：金銀印花箋（安徽掇英軒）

● 村瀬俊彦「いくかへり」（藤原定家）

(いくかへり 山もかすみて としふらむ 春立つ今朝の みよし野のはら)

使用墨：和墨 水道水 手磨り

使用筆：無印兼毫

使用紙：楮紙（萱目）

